



リーダーシップ

ジョン・ヒューコ

事務総長

2018年1月15日

グッドモーニング (Good Morning)

ボンディーア (Bom dia)

ブエノスディアス (Buenos días)

ナマスカ (Namaskar)

ブオンジョルノ (Buon Giorno)

グーテンモルゲン (Guten Morgen)

ニーハオ (你好)

ボンジュール (Bonjour)

ドブリーデン (Dobry den)

ドブリーデン (Dobryden')

おはようございます

アンニョンハセヨ

改めて、皆さん、おはようございます。

本日は、ロータリーでのリーダーシップと変化についてお話しすることになっています。これらは、過去 112 年間もそうでしたが、ここにいる皆さんにとって重要な主題です。世界をより良い場所にすることができたのは、偉大な歴代ガバナーのリーダーシップ、そして何百万というロータリアンの活動があったからです。

しかし、長くて輝かしい歴史をもつ偉大な組織がすべてそうであるように、ロータリーは今、転換点にあり、岐路にあります。

テクノロジーとコミュニケーション手段により、人が交流する方法が、根底から、しかもこれまでにない勢いで変わってきています。

私たちは、職業上の人脈を広げたり、地域社会に恩返しする方法が無数に存在し、競合しあう時代に生きています。

また、多くの国で、若い職業人たちは仕事や家族のための十分な時間が取れず、ましてやロータリーのような外部の活動に携わる時間はありません。

その結果、過去 15 年間に全世界の会員数が 120 万人で低迷していることから分かるように、今の時代、ロータリーは世界的なレベルで深刻な課題を抱えています。

しかし、今の時代はまた、この素晴らしい組織が適応し、成長できる大きなチャンスでもあります。このチャンスをとらえるには、皆さん、そしてロータリー世界の多くの人たちのリーダーシップが必要とされます。

私たちの未来が、変化を促す強いリーダーシップにかかっているとしたら、次のシンプルな問いを投げかける必要があるでしょう。「“優れたリーダー”とは何か？」

19 世紀、ロータリーの始まる少し前、リーダーシップはいわゆる「偉人論」で定義されていました。リーダーシップとは、生まれながらの特質であり、それを持つか、持たないかのいずれかでした。歴史を方向づけてきたのは、それを持つ人たちだという考えです。

このような枠組みでの「偉大なリーダー」の定義を、しばしば耳にします。偉人論によると、偉大なリーダーとはつくられるものではなく、そのように生まれつくものであり、肩書や身分のかたちを取ることが多いのです。

しかし、この「リーダー」の定義は、ロータリーの歴史にも当てはまるでしょうか。

21 世紀においても当てはまるでしょうか。ロータリーのリーダーとしての皆さんのご経験に当てはまるでしょうか。

ある逸話をご紹介して、この問いに答えたいと思います。

19 世紀の終わりに近づいた頃、ある若者が、入学後まもなく退学処分を受けました。

いたずら好きで知られていたこの若者は、その悪ふざけがたたって、今度はバーモント大学から再び退学処分を受けてしまいます。

その後、名門プリンストン大学に入学するも、卒業にはいたりませんでした。結局ほかの名門大学を卒業しましたが、大学での経験で一番よかったことは、ほかの学生と交わした友情だったと本人も認めています。

この経歴を聞くと、将来に偉大な人物になる人だとは思えません。しかし実のところ、この人は、ロータリーの創設者ポール・ハリスにほかなりません。

ハリスが学業だけに没頭していたら、後にロータリーとして知られることになる最初の会合を、3 人の友人とともに開くという考えは浮かばなかったかもしれません。

最初の会合を開いた動機についての説明で、ハリスは次のように述べています。

「立身出世するためにシカゴにやってきた多くの若者がほかにもいるはずだ……彼らを一堂に集めたらどうか。私のように彼らも友情を求めているとしたら、きっと何かが生まれるに違いない」

実際にこのアイデアから何かが生まれ、1947年にハリスが他界するまでに、ロータリーは4人のグループから、世界70カ国に6,000のクラブ、30万人の会員を擁する団体に成長しました。

ポール・ハリスは、類まれな才能に恵まれていたわけではありません。何もかもが違う大都会に引っ越して圧倒感と孤独を感じた最初の人でもありません。シカゴの地域のまとめ役であったわけでもありません。

しかし、自分のビジョンを雄弁に語り、人びとにインスピレーションを与えることができました。自分の必要性から行動を起こし、フェイスブックやリンクインなど存在するずっと前に素晴らしいソーシャルネットワークを作ることができました。社交クラブとして始まったグループを、より偉大な目的をもつ組織へと転換させる機会に気付くことができました。

簡単に言えば、ロータリーでのリーダーシップは、未来のために断固たる行動をとることなのです。

ロータリーの歴史を見ても、リーダーシップとは持って生まれるもの、特別な才能をもつ人だけが持つもの、またはエリート階級や特権階級だけが持つものとは限りません。

階級や権力とは関係がないのです。

このように、ロータリーで私たちが必要とするリーダーシップに、「偉人論」はほとんど当てはまりません。今日のリーダーシップは、できる限り大きなインパクトを未来に残すための選択ができるかどうかにかかっています。また、1人の人間がこのような選択を下すことは、めったにありません。

20世紀の終盤にポリオ禍に対してロータリーがどのようなアプローチを取ったかを考えてみましょう。

保健専門家たちは、一つの疾病に対する一斉予防接種を支援することに半信半疑でした。

そこでロータリー会員は、ポリオ撲滅を提唱する取り組みを始めました(ここで「会員」が複数形であることを強調したいと思います。これは一人の伝説的リーダーの功績ではありません)。

この活動により、半信半疑だった人たちも納得し(この経緯の詳細は皆さんもご存知の通りです)、今では歴史上2番目となる疾病撲滅まであと一步のところまで来ることができました。

これが、ロータリーでのリーダーシップの本質です。それは、とてつもなく大きな課題に挑戦し、ポリオを撲滅できると信じた、省庁や国連などの多国間機関にはない、非営利団体ならではの大胆さです。

この成功は、(偉人論とは)違う種類のリーダーシップの表れだと、私は思います。なぜなら、リーダーとマネージャーはつくられるものであり、そう生まれつくものではないからです。

大切なのは肩書ではなく、行動力です。それは、皆さんが地区ガバナーとなることを選択したときと同じです。未来のためにリーダーシップを発揮し、現在のために管理すべきときを心得ることが重要なのです。

1988年、ボランティア団体が大規模な公共保健活動を先導するなど無理だという議論に、私たちは立ち向かわなければなりません。地域社会に呼びかけ、市民を動員できる強みを生かして、リーダーシップを発揮すべきかどうかを決断しなければなりません。また、撲滅活動における専門的な側面をどう管理すべきか、WHO(世界保健機関)などの保健専門機関に委ねるべきかを決めなければなりません。

これらの大胆な決断をせずに、「無理だ」と言う専門家たちの権威を受け入れていたら、「世界ポリオ撲滅推進活動(GPEI)」は開始されなかったでしょう。そして世界は、今日とまったく違う歴史をたどっていたでしょう。

冒頭で、リーダーシップと変化の重要性についてお話しすると申し上げましたが、それは、この2つが互いに結びついているからです。

しかし、リーダーシップは今日のロータリーにとってどんな意味があるのでしょうか。

一言で言えば、リーダーシップとは未来に目を向けることです。私たちの第一の懸念も、ロータリーの未来にあります。

先ほど申し上げたように、ロータリーは岐路に立っています。この分岐点をうまく管理するには、ポール・ハリスが投げかけた課題に挑まなければなりません。ハリスはこうつぶっています。「ロータリーがしかるべき運命を切り開くには、常に進化し、時には革命的にならなければならない」

ですから今日、21世紀の課題に、20世紀の解決方法で臨むという罠に陥ることはできません。現状維持の管理を行うのではなく、革新を取り入れて導く必要があります。

昨夜、バリー会長エレクトは、新しいビジョン声明に沿って行動するよう私たちに求めました。「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています」

このビジョン声明からインスピレーションを得た私たちは、長期的に物事を考え、21世紀のロータリーの活動を再定義する新しい戦略計画を立てています。つまり、もしポール・ハリスがここにいたら投げかけるであろう、次のようなシンプルな問いを立てています:「ロータリーは、今日だけでなく、今後数十年にわたり、人類にどう奉仕できるか」。このプロセスを成功させ、未来のロータリーの姿を描くにあたり、私たちは、皆さんからの参加、そして地区のクラブからの参加を必要としています。

まずできることとして、バリー会長エレクトが、ロータリー賞の中で、次年度に皆さんがリーダーシップを発揮し、変革とインパクトの道を歩み続けるためのロードマップを示してくださっています。

会長エレクトは、ガバナーとして次年度に3つのことを優先するよう皆さんに求めました。それは「クラブのサポートと強化」「人道的奉仕の重点化と増加」「公共イメージと認知度の向上」です。

最初の「クラブのサポートと強化」については、2016年規定審議会が、例会、出席、会員種類の方法をクラブが決めることのできる柔軟性を認めました。

また、ロータリアンとなるローターアクターの数を増やしたいという願いから、ローターアクターが同時にローターアクトクラブとロータリークラブの両方の会員となることも認めました。ロータリーの価値観と使命に既に力を注いでいる30万人が加わったら何ができるかを、皆さんも想像してみてください。

ですから、皆さんに与えられた課題は、大胆かつ革新的となり、地区内のクラブに新しい運営モデルを試すよう促すことです。なぜなら、結局のところ、私たちが行っていることは、市場に商品を出すのと似ているからです。ロータリーの場合、商品とはクラブでの経験であり、会員がロータリークラブ入会によって時間と費用と引き換えに得ることのできる経験です。

手短に言えば、35,000クラブの創造性を引き出す必要があります。すべてのクラブは、異なるクラブモデルや奉仕モデルのベータ版体験者となる可能性を秘めています。成功するクラブもあれば、失敗するクラブもあるでしょう。しかし重要な点は、違う視点で考えることです。ロータリーを未来へと導く新しく革新的なクラブモデルを見つけるほぼ確かな方法は、ボトムアップ式に、この創造的プロセスを経ることなのです。

このプロセスを促すため、毎月、『The Rotarian』誌に、新しい試みを通じて変革を試みているさまざまなロータリークラブを紹介していきます。ですから、地区に少なくとも1つの革新的なクラブができるよう、皆さま一人ひとりをお願いしたいと思います。もしかしたら、そのクラブが選ばれて『The Rotarian』で紹介され、ほかの何千というロータリアンのインスピレーションになるかもしれません。

バリー会長エレクトが昨日おっしゃったように、真に持続可能な奉仕とは、私たちが行うすべての活動を、より大きなシステム、より大きくグローバルな生態系の一部として見ること、強く、これからやって来る変化に対する回復力がある地域社会を築いていくことを意味します。

未来が必要とするのは、結果を生み出すような、規模の大きい持続可能なプロジェクトです。グローバル補助金のモデルが生み出されたのは、このためです。

2番目の優先事項である「人道的奉仕の重点化と増加」については、ロータリー財団のグローバル補助金を利用して、より規模が大きく、より効果的で、持続可能なプロジェクトを実施するよう地区のクラブに呼びかけてください。

私の考えでは、2013年に全地区に導入されたロータリーのグローバル補助金のモデルは、ポリオ撲滅活動の開始後、30年間にロータリーが着手した最も重要な取り組みだと思っています。それは、グローバル補助金モデルにより「プロジェクトの持続可能性が高まる」、「プロジェクト実施時の広報効果が高まる」、「他組織と協力する機会が広がる」という3つの理由からです。

ですから、ロータリーの補助金がもたらす可能性を生かすよう、クラブに奨励してください。

最後に、バリー会長エレクトは、地域社会でロータリーの公共イメージと認知度の向上に力を入れるよう、皆さんに求めました。

ですから、時間を割いて、rotary.org の「ブランドリソースセンター」にあるロータリーの新しい世界的広告キャンペーン「世界を変える行動人」の資料にはどのようなものがあるかを確認してください。ロータリーの活動に対する人びとの理解を深めるために、これらの資料を活用するようクラブに呼びかけてください。

究極的に、リーダーとして導くことは、観戦スポーツではありません。それは、未来のために導くという選択から始まるものです。

皆さんが率先し、

リーダーシップを発揮すべきとき、管理すべきときに決断を下し、

革新を取り入れるようクラブに促し、そのやる気を引き出してくださいれば、

ロータリーの奉仕の第二世紀は、第一世紀よりもさらに変革力のあるものとなるでしょう。

次年度に「変化をもたらす」ことによって引き続きリーダーシップを発揮し、会員、そして世界への「インスピレーション」になっていただけることを楽しみにしております。

ご清聴ありがとうございました。